

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2873100651		
法人名	株式会社 日本福祉総合企画		
事業所名	ハートケア川西		
所在地	兵庫県川西市多田院2丁目16-1		
自己評価作成日	平成27年10月15日	評価結果市町村受理日	平成28年2月19日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

認知症高齢者の方に対して常に温かい心で接し落ち着いた暮らし実現を目指し家族に安心していただけるように頑張っています。静かな住宅地にあり周りに緑が多く四季の移ろいが感じられ心落ち着く環境にあります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/28/
----------	-----------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 H.R.コーポレーション		
所在地	兵庫県西宮市甲陽園本庄町6-25-224		
訪問調査日	平成27年10月27日		

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近くに公園、神社、スーパー等がある住宅地に立地している。利用者が安心してゆったりと過ごせるよう、何事も無理強いせず、本人の意向や思い、生活習慣を大切に支援に取り組んでおり、利用者一人ひとりのペースで過ごしている。施設ぼっくない事業所づくりを目指しており、スタッフ同士力を合わせてケアに取り組んでいる。事業所内の清潔保持に努め、定期的なワックスがけと共に、消臭剤や芳香剤の使用で臭い対策に配慮している。職員と利用者が、同じ食事を会話を楽しみながら行っており、家庭的な雰囲気がある。また、2医療機関の医師による往診や、歯科医の往診もあり、医療面で安心感を与えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが ○ 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および第三者評価結果

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関に理念を掲示しているため、家族様、職員が見えるようにし共有しています	事業所独自の理念をつくり、地域密着型サービスの意義・役割を明確にしている。理念を事業所入口に掲示するとともに、利用者との日々の関わりの中で課題等が生じた時には、全体会議で理念に立ち返って話し合い、理念の共有と浸透を図っている。理念を具現化するために、27年度ハートケア川西「利用者権利擁護指針」(コンプライアンスルール)を策定し、接遇・虐待防止等についての具体的内容を明確にしている。指針を事務所・職員休憩室に掲示し共有を図っている。ヒヤリハット報告書作成に積極的に取り組むことにより、指針に対する実践状況を確認しながら理念の実践に向け取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	日常的な交流はできていなが、運営推進会議や福祉委員会に出席し情報を得るようにしています	地域の自治会に加入し、地域の人達と情報交換を行っている。地蔵盆には地域の人達がお供えを持参してお参りに訪れ、近くの花畑で育てた季節の花や野菜を届けている。音楽療法や地域の訪問理容等のボランティアの来訪や、ハロウインの時期には近隣の小学生が来訪し、地域と交流している。地域の運動会のスポンサー協賛や障害者作業所のカレンダー購入等を行い、ケアマネジャーが地域の「福祉ネットワーク会議」に参加して災害対策の啓発等を行っている。また、「多田地区認知症SOSネットワーク」への参加等、地域で必要とされる役割や活動を担っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域主催の福祉ネットワーク会議に出席し意見を述べています		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヵ月に一度の開催が定着し家族様、地区の方に参加していただき意見を聞くようにしています	家族代表・多田地区及び中央地域包括支援センター職員・福祉ネットワーク会議委員長・自治会長等をメンバーとし、概ね2ヶ月に1回以上開催している。会議では、利用者の状況、行事等事業所の取り組み、第三者評価結果や防災訓練の報告・話し合いを行っている。	利用者にも、状況に応じて可能な限り参加を呼び掛けることが望まれる。今後、運営推進会議での話し合いを通じて、事業所の取り組みについての理解を深め、より多くの意見・提案等をサービスの向上に活かす取り組みが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	更新手続き等は直接持っていくその時に担当者様と話しをするようにしています	地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、そこで事業所の取り組み等を伝えている。市の職員も参加する川西市グループホーム連絡会や福祉ネットワーク会議等に参加し、情報交換を行っている。事業所のポストが市に設置されていることもあり、法令解釈や事業所の課題等の相談で市職員と面談し、電話やFAXで連絡し合う等、協力関係を築けるよう取り組んでいる。市も課題解決に向け助言等を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	やむを得ず必要な場合は同意書を交わし取り組んでいます	ケアマネジャーが外部研修の受講により拘束がもたらす弊害や禁止の対象となる具体的な行為を学んでおり、全体会議時に事例検討を行いながら身体拘束について正しく理解できるよう話し合っている。また、言葉による心理的な拘束等についても話し合っている。日々のケアの中で職員間で気づきがあればお互いに注意し合い、ユニット毎の不適切な事例は「連絡帳」にも記載し、拘束に繋がらないよう周知を図っている。家族にも予測されるリスクを説明し、身体拘束をしないケアに努めている。事業所内のエレベーターは自由に使用でき、玄関ドアはワンタッチ式で利用者自ら操作出来る人には、安全面に配慮しながら外出できるよう配慮している。	年間研修計画を策定し、「身体拘束廃止」「虐待防止」「感染症対策」「認知症理解」「接遇・プライバシーの確保」「権利擁護」等を採用入れ、定期的、継続的に全職員に理解と周知を図るための仕組みづくりが望まれる。また、止むを得ず身体拘束を行う場合は、必要とされる記録の整備が望ましい。

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待が発生しないように常日頃から心がけており、又、発生防止に努めるとともにチェックを行っています	高齢者虐待防止について、全体会議で話し合う機会を持ち、身体的以外の虐待についてもコンプライアンスルールに記載して職員休憩室に掲示する等、虐待の防止に取り組んでいる。日々のケアの中で虐待につながりそうな事例があれば、管理者やケアマネジャーより職員に注意し、「連絡帳」にも記載して防止に努めている。パート職員への短時間勤務対応、希望を採り入れたシフト調整、コーヒースペースの設置等、疲労やストレスが利用者のケアに影響を与えないよう取り組んでいる。入浴時には、あざや打ち身等身体状況に留意して、自宅や事業所内での虐待が見逃される事のないよう注意を払い防止に努めている。	
8	(7)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会議で話し合いの機会を設けています。業務中にも話し合える機会を持てるようにしています	ケアマネジャーが外部研修等で成年後見制度等について学んできたことを、全体会議等で説明している。成年後見制度を活用している利用者があり、後見人への状況報告や証書類の整理・提供、家族への対応等、活用のための協力支援を行っている。制度の活用が必要と思われる利用者には、これまでの経験を活かし、ケアマネジャーが家族に制度について情報提供等を行い、活用のための支援が出来る体制がある。	
9	(8)	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約に関しては丁寧に説明をし時間を充分にかけ納得頂けるように説明し契約の履行をしています	契約時には、全項目を読み上げながら時間をかけ契約書・重要事項説明書の内容説明を行い、理解と納得を得て契約している。特に利用料関係については、不安や疑問点を尋ねながら時間をかけて説明している。利用料については、別紙の介護度別料金表を併用してシュミレーションを行いながら説明している。契約内容の改訂を行う時には家族に根拠を明確にした文書を送り同意を得ている。入院等での解約時には、家族等に退居先の情報提供等を行ない、退居時の不安解消のための支援を行っている。必要に応じて退居先へも事業所での暮らしぶり等の情報を提供している。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(9)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者評価を利用することにより意見要望の発信が出来ていると考えます。管理者とのコミュニケーションが図れるように心がけています	家族訪問時には、家族に気軽に意見や要望を言ってもらえるよう、利用者の近況を伝えている。また、ケアマネジャーが個別に近況等を手紙にまとめ送付している。納涼祭、クリスマス会等の行事後や介護計画説明時に意見交換の場を持っている。第三者評価時の家族の意見は貴重な意見として尊重している。また、利用者とは散歩時等の職員と1対1の機会にコミュニケーションづくりに努め、意見等の把握に努めている。	
11	(10)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	コミュニケーションの場を心掛けておりホーム内では話しやすい雰囲気があり意見を自由に述べています	管理者は日常的に職員に声かけを行い、ミーティング等で意見交換を行っている。また、事務所にコーヒースペースやオフィスコンビニを設け、気軽にコミュニケーションが図れるよう努めている。また、事務所に匿名で意見等を投入できる「カイゼン箱」を設置している。他ユニットの不定期勤務の採り入れ等で、ユニット間の異動を行なっても利用者とのなじみの関係に支障がないよう配慮している。また冬季用勤務時間の採り入れ等、職員の意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則等については、事業所内に常に置いてあります。いつでも見れるようにしています。質問にはいつでも受け付け回答するようにしています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	役所主催の研修には積極的に参加しています。各種研修についても奨励し参加を促しています		

自己	者	第三	項目	自己評価	外部評価	
				実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14			○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	川西市グループホーム連絡会に参加し交流しています。定期的に各事業所に表敬訪問を行い情報交換を行うことを心掛けています		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15			○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人、家族から要望を聞き、細やかなケアに努めています		
16			○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所当初は密に連絡を取り関係作りに努めています		
17			○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所当初より本人、家族様と意見等を聞き、必要な支援を見極めるように努めています		
18			○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭に居る時と同じように本人の立場に立って関わっています		
19			○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族様との関わりは状況に応じた対応をお願ひしています		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いつでも面会に来ていただけるように努めています	入居時に家族等から今までの生活歴・趣味等を聞き、本人がこれまで大切にしてきた人や地域との関係の把握に努め「フェイスシート」等に記録として残している。日々のコミュニケーションの中で把握した情報は、「個人ノート」に記載し、情報の共有と浸透を図っている。会社勤め時代の後輩や、友人・知人等の来訪時には湯茶の接待やフロアーの使用等気軽に訪問できる雰囲気づくりに努め、再来訪を依頼している。また、手紙のやり取り支援等、馴染みの人や場との関係継続に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションの場を設け交流が出来るように努めています		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去となった場合必要に応じ病院等に出向き本人、家族様の支えとなるように努めています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と話の中から気持ちを汲み取りケアに活かす様にしています	入居時に家族・本人から聞き取ったり、日々の利用者とのコミュニケーションの中で思いや意向を把握に努めている。把握した情報は「フェイスシート」「個人ノート」等に記載し、情報の共有を図っている。意思の疎通が難しい利用者については、態度・表情等から汲み取り、利用者の立場に立って時々の状況に応じた支援に努めている。また、目の不自由な利用者とのコミュニケーションづくりでは、食事時は皿、スプーン等ひとつずつ耳元で説明しながら手渡し、可能な限り利用者の思いに沿って不自由なく過ごせるよう支援している。耳の不自由な利用者には、耳元ではっきり伝えている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	特に家族様などのヒアリングを基に状態の把握に努めています		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	情報収集しチームで共有し残存能力の活用に努めています		
26	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のミーティング時にカンファレンスを行い本人の行動、発言や家族様の意見などを参考に現状に合った介護計画、モニタリングを作成しています	ミーティング時に利用者の日々の様子や職員の気づき等を話し合い、本人・家族の意向を踏まえた介護計画を基本的には6ヶ月毎に作成している。計画の作成にあたっては、往診医師・看護師等の意見を計画に反映させている。計画作成時毎に、モニタリングを行いモニタリング表を作成して、次の計画に結びつけている。入院等利用者の状況や家族の意向等が変化した時は、期間に関係なく現状に即した新たな計画を作成している。	アセスメントに基づいて策定された介護計画に沿ったケアが日々実施され、モニタリングの結果が次の計画に結びつく一連の流れ(PDCA)が明確になる仕組みづくりと記録の工夫が望まれる。また、全利用者について、1ヶ月に1回程度は介護計画の内容を確認することが望まれる。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	センター方式を用いて個別ノートを作成し日々のケアに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	レクリエーションなどは個々のその時の状況により考えて行っています		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	福祉委員会に出席し地域の情報を得るようにしており、ハロウィンには子どもたちを招いて交流しています		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>都度適切なアドバイスをあおぎケアにつなげています</p>	<p>二人の提携医による定期的な往診があり、緊急時の対応、投薬の利便性等から、本人・家族の希望により、往診医師がかかりつけ医となっている。往診医以外の専門医等受診時の通院介助は、基本的には事業所が行い、特別な症状があるときは家族が行っている。受診結果等は個人別の「通院往診記録表」に記録として残し、職員に伝えるべき事項は「個人ノート」「連絡ノート」等で受診結果をお互いに共有している。通院介助や受診結果の報告方法については、契約時にしっかり話し合っている。希望者には歯科医の往診がある。</p>	
31		<p>○看護職との協働</p> <p>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>往診時に主治医とともに支援してもらっています。緊急時の対応も指示を受けています</p>	/	/
32	(15)	<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>主治医より情報提供書類を入院先の医師へ連携して頂いています</p>	<p>個人別に、フェイスシート・保険証・服薬情報・居宅療養管理指導書等をファイル化し常備している。入院時には、個人別ファイルで入院先医療機関に本人の支援方法に関する情報を提供している。入院中は随時家族と同行して見舞いに行き、安心しての受療と早期の退院に向け地域医療連携室等関係者と話し合っている。退院時には、「看護サマリー」の提供を受けて、退院後の事業所での支援に活かしている。</p>	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(16)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族様へのホームの考え方を説明し重度化への対応や終末期のあり方に同意を得、方針を共有しています	事業所では一定条件のもと、希望があれば看取りを行う方針がある。契約時に「利用者様の状態変化(重度化)による対応方法(指針)」と「緊急時等確認書」で重度化した場合や緊急時等において事業所が対応しうる支援方法の説明を行い、同意を得ている。重度化が進んだ段階で、家族の意向等を踏まえた今後の支援方法をかかりつけ医等を交えて繰り返し話し合っている。看取りにあたっては、連携医療機関の医師、看護師等関係者の協力を得ながら支援に取り組んでいる。	重度化対応方針説明時に、終末期対応への家族等の意向を確認し書面で残しておくことが望まれる。また、重度化が進んだ段階で家族と話し合った内容については、その都度記録として残しておくことが望まれる。また、終末期介護計画の作成(見直し)が望まれる。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作り学習し身につけています	/	
35	(17)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練、実施しています	今年度、2回(うち1回は消防立ち合い)昼夜想定火災時の総合訓練を実施している。運営推進会議で、避難訓練について報告し、地域へ協力を呼び掛けている。事業所近隣に居住する職員も多く、緊急連絡網を整備している。利用者・職員には建物内での喫煙を禁止して防火に努め、米・ゼリー・水・カセットコンロ等を備蓄し、オフィスコンビニ商品も災害時の食飲料としている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	幼児語や命令調の言葉かけをしないように対応しています	事業所のコンプライアンスルールを策定し、掲示等で周知を図るとともに、ミーティング時に利用者一人ひとりの対応に関する留意点を話し合い、日々のケアに活かしている。幼児語や命令調の言葉かけをしない等、日々のケアの中で誇りやプライバシーを損ねないよう留意し、気がつけばその都度助言したり、ミーティング等で話し合っている。ホームページには利用者の写真は使用せず、「ほのぼの新聞」や事業所内に掲示する写真については同意を得ている。個人記録類には、他の利用者はイニシャルで記録し、事務所に保管して個人情報の適正な管理に努めている。	

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定できるような言葉かけを心掛けています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	各個人のペースで生活してもらえるように支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容は2カ月に1度。服装は季節に合った服装を着てもらうように支援しています		
40	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に出来ることはないが、雰囲気作りの面で美味しく食事できる環境作りをしています	厨房で委託業者が調理した食事が届けられ、ユニットでご飯や汁物の用意と、盛り付け等を行っている。必要に応じてゼリー食を購入提供する等、一人ひとりの状況に応じた工夫を行っている。検食の仕組みを採り入れ、厨房を通じて委託業者に利用者の好みや希望を伝えている。食事レク・おやつレク等の機会を設けたり、食器洗い・テーブル拭き等に利用者も参加する等、一人ひとりの力や好みを活かせる場面づくりに取り組んでいる。また、職員も介助しながら同じ食事をとり、家庭的な雰囲気ですぐに食事が楽しめるように努めている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個々の状態に応じて様々(ゼリー食、ミキサー食、普通食、トロミ対応)な方法で食事をして頂いています		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科の指導の下、スタッフがケアしています		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックを行い把握し支援できています	全利用者24時間時系列の排泄チェック表を活用し、一人ひとりの排泄状況を確認しながら誘導を行い、トイレでの排泄を大切に支援を行っている。夜間はおむつでも昼間は紙パンツとパッドを試み、おむつ類を一括購入する等、おむつの使用を減らすとともに家族の経済的な負担の軽減にも努めている。排泄介助時は必ずドアを閉め、大きな声での声かけを慎む等、プライバシーを損ねないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日チェックし便秘しないように取り組んでいます		
45	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	希望を聞いての入浴になっていないので定期的に入浴できるように支援しています	基本的には2～3日に1回、午後の入浴としているが、希望があれば午前入浴やシャワー浴を含め適宜対応している。異性介助を嫌がる人には同性介助を行い、できることは自分で洗身してもらおう等、プライバシーを損ねないように配慮している。入浴を嫌がる人には、時間や職員を変更する等一人ひとりに合った支援方法を工夫している。また、ゆずの入浴剤を使用する等、入浴が楽しめるようにも配慮している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠を保てるように室温等に気を配り支援しています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬管理を行い、手渡し服用の確認を行っています		

自己	第三者	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割を持ってもらい支援できています		
49	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望にはそえないが家族の協力にて外出している。ホームで買物に出掛けることもあります	利用者の状況・天候等に沿って、事業所前の花畑や地藏菩薩へのお参り等での外気浴や、近隣のスーパーへの買い物の機会を設け、また、ドライブを兼ねて近くの神社や公園での花見等に出かける機会づくりも行っているが、頻度としては多くない現状である。	利用者の状況・希望・天候等に沿って、日常的により一層戸外に出かけられるよう支援に努めることが望まれる。また、時には普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、出かけられるように支援することが望まれる。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は基本ホームでしており買い物があれば購入しています。たまに買い物ツアーも行くようしています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	要望があればホームで支援しています		
52	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔保持に努めています	中庭を中心に廊下が回廊式になっており、明るく開放感がある。共用空間には、紅葉の貼り絵や季節ごとの飾りつけを行い、また、利用者の手作りの作品や行事の写真等を飾り、季節感を採り入れた、家庭的な雰囲気づくりへの工夫が見られる。定期的にワックスがけを行い、換気や空調管理にも配慮している。	

自己 者 第 三	項目	自己評価	外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	各フロアにソファを配置しゆったりとした空間作りに努めています		
54	(24) ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた家具を持って来て頂き居心地の良い居室になるように努めています	鏡台等の家具・家族の写真等、利用者の馴染みの物や使い慣れた物を持ち込み、居心地の良い生活空間となるように支援している。持ち込みの少ない利用者には、誕生日カードや利用者と共に作った作品を飾り、落ち着いて過ごせるように工夫している。また、利用者の状況によっては安全面に配慮し、家具の配置等に慎重に対応している。	
55	○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自由に歩けるようにしている。職員は常に利用者様の居場所に気を付けています		